

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2026/08/10号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



ホルムズ海峡開放期待で80ドル割れ

NY原油先物相場は、1バレル=70ドル台後半まで下落する展開になった。中東情勢は先行き不透明感が強かったが、原油相場はホルムズ海峡の開放期待を織り込む動きが優勢になり、7月13日以来の安値を更新した。イランとオマーンはホルムズ海峡の航路について合意し、ホルムズ海峡の開放に向けて環境整備が進んだと評価されている。ただし、イランは米国やイスラエルなど敵対国の同海峡通航を禁止するとの報道もあり、80ドル割れからさらに大きく値を崩すような展開には至らなかった。

トランプ米大統領は繰り返し、ホルムズ海峡の開放を巡る合意は近いとの見方を示している。ベッセン ト米財務長官も8月4日、「今日か明日にもイランとの合意が成立する可能性がある」と発言している。しかし、イラン側からは米国との協議そのものを否定するような声も目立ち、情報が錯綜している。実際にホルムズ海峡の開放に向けてどのような状況にあるのか把握することが難しく、原油相場は上値の重さが目立ったものの、大きく値を崩すには至らない不安定な地合になった。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（7月31日時点）は、原油が前週比248万バレル増、ガソリンが164万バレル減、石油精製品が347万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

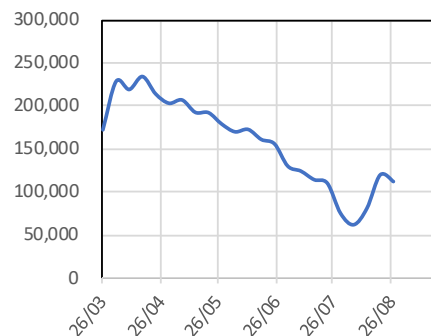
【展望】

中東情勢で揺れ動く、情報錯綜で波乱の展開が続く

中東情勢に強く左右される地合が続くが、先行き不透明感の強さに加えて、現状の把握も難しい状況にある。原油市場における焦点はホルムズ海峡の開放の有無であり、原油流通環境の改善が進むか否かによって、原油価格の短期トレンドも決まる。こうした中、イランとオマーンが同海峡の航路について合意に至ったことは大きな前進であり、海峡開放に向けて進展を見せたことは原油相場の上値を圧迫しよう。ただし、米国はあくまでも自由通航を主張しているのに対して、イランは敵対国の通航禁止を主張するなど、両国の主張は依然として大きく異なる状況にある。米国側からは合意成立を楽観視させる動きが目立つ一方、イラン側からは合意成立を疑問視させる動きが目立ち、前週に続いて今週も原油相場は中東情勢の変化に敏感に反応する不安定な地合が想定される。引き続き、上下双方に10ドル程度の値幅は想定しておく必要がある。

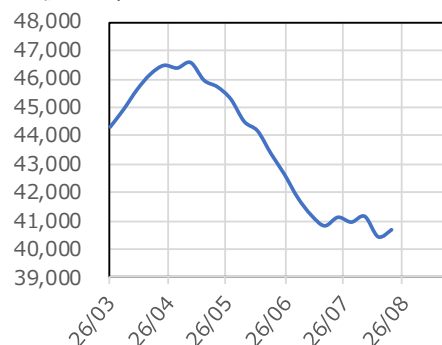
ホルムズ海峡のタンカー通航が低水準にとどまる中、現物需給は改めて引き締まっている。一方で、マーケットは同海峡の開放に対して楽観的な見方が強く、基調としては戻り売り優勢の展開が続きやすい。徐々に中東情勢の混乱が伝わった際の買い圧力が弱まっており、トレンドとしては値位置を切り下げる展開が想定される。ただし、ホルムズ海峡の開放に向けた合意が実現するまでは、突発的な急伸リスクも高めの地合が続く見通しだ。イエメン武装組織フーシ派が、紅海で船舶に対する攻撃を続けていることにも注意が必要だ。不規則な値動きを繰り返す展開を想定したい。8月12日に国際エネルギー機関（IEA）と石油輸出国機構（OPEC）の月報が発表される。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



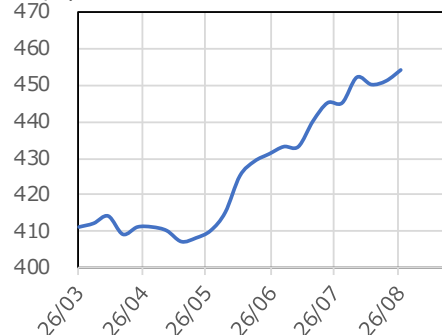
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-21 BIZ SMART 茅場町 321号

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL：03-6661-9498 【E-mail】 info@markededge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

